―――――――――――――――――――――――――――――――――

**Q01.　探究はやはりグルーブが前提でしょうか。本校の場合、そこでつまづく生徒が出てくる懸念があります。**

蒲生：各学校の経営計画、教育計画に寄ります。探究で有名な高校の中にはグループではなく1人で行っているところもあります。ただ、最近ではグループ活動で取り組む学校が増えている印象です。理由として①指導リソースの関係で、1人ずつやると大変になる、②グループのダイナミズムの中でチームワークが学べるという利点があります。ただ、難しい部分はあります。生徒の特性としてグループがやりにくいという人もいる、フリーライダーの問題もあります。また、チームワークを指導するというのも難しいです。人間関係、関係性を把握し、お互いの能力を引き出すことができるのか、そういう介入ができる教員集団なのかというむずかしさがあります。

図書館の司書さんは案外そういう所を見ており、「自分の学校だと大変だ」という点など、「先生がしんどい」という話はよく聞くこともあるかと思います。このあたりは管理職の問題になるかとます。管理職が教員集団をちゃんと育成できるかということ。司書さんはそのあたり外側から見ていると思うので、管理職に伝えるといいかと思います。

**Q02.　探究課題の評価といいますが、生徒が決めてきた課題を幼稚であるというようにダメだしする必要はないのでしょうか。探究課題のレベル設定のようなものは必要ですか。**

蒲生：「幼稚である」という理由で排除するというより「形になるか」というところが大きいですね。ある高校の探究失敗事例としてマレーシアへの海外研修と関連づけて授業を行ったら、出てきた探究課題が「マレーシアのスイーツトップ10」。それ自体、調べて何になるのか。いまいち、不明瞭です。例えば、「マレーシアで一般的に食べられるスイーツを調査して、食文化について調べる」まで行くと、なるほど、となる。

最近、ある高校と連携して探究実践をやっているのですが、生徒から出てきた50題くらいの課題を私はその学校の先生とともに全部点検してコメントをしています。全てに対して改善点を示しますね。

「幼稚だからダメ」というのではなく、「目論見としていけるか」という判断をしないといけない。これは大変、難しいと思います。研究として形になるかってことですからね。校内で研究経験のある先生に活躍してもらうとか、地元の大学教員と連携して入ってきてもらうとか。あるいは、私まで相談してくれればご助言できるかもしれません。これは教員として1回、2回やれば、できるできないが見えてくるので、初手として専門家を入れ、ある程度回りだしたら自分たちでやる、それでもいいかなと思います。

**Q03.　本校では3年生で論文を作成しますが、データの扱い方や引用の仕方、アンケートの使い方といった基礎知識を教える機会がありません。1,2年で扱うなど、段階的な指導が必要かと感じるのですが、いかがでしょうか。**

蒲生：おっしゃる通りですね。恐らく1，2年生でも授業あるとは思うんですけど、段階的な指導は必要だし、もしコマ数が限られているならば、情報科、国語、社会科等々、各教科が連携してポイントになることを教えておく。各教科から1,2コマもらって、図書館のレファレンスの仕方や調べ学習の方法を教えるといった学校全体で柔軟な形でやっていく。これに関してはやはり教科との連携、学校全体の取組になるから図書館側からの提案ということで管理職との相談になるかと思います。

**Q04.　学校司書の役割は「備える」ことが主となると思いますが、なかなか百科事典を更新できていません。予算交渉は続けるしかありませんが、将来的な流れとしては、百科事典も紙ではなく電子のものを導入したほうが良いのでしょうか。**

蒲生：データベースはものすごく大事なので、データベース契約いいとは思いますね。ただ、自宅での学習等、学校が契約しているオンライン百科事典を利用できない場合は「コトバンク」など、フリーのオンライン百科事典集は活用できますね。

では図書館に百科事典はいらないのか、というと、先ほどのグループ学習とも繋がるのですが、本を開いてみんなでああでもないこうでもない、といえるリアルメディアとしての 価値があります。ネットとなると皆スマホを使うのですが1つの画面をみんなで見るというのは難しいですよね。そうなると紙の本はそれを利用する際の身体性というの違うのでしょう。

さらに言えば、司書さんとしては調べ学習などで生徒が図書館を活用する際、生徒の「動き」を想定して、何が必要か空間を組み立てておくことが必要になりますね。カフェ図書館にすべきか、というのは、全部学校の中での図書館の位置やコンセプトを明確にする中で作っていくのかなと思いますが探究学習とは少し方向性が違うものですね。

簗瀬：オンライン百科事典については、ジャパンナレッジSchoolにもかなり入っているので、来週のセミナーもご視聴下さい。

紙と電子は利用シーンがちがうと思う。入口のところ、自分一人で深めていく、それぞれのシーンでどちらの媒体を使うのか、そのあたりは使い分けしていくものなのかなと話を聞いていて思いました。

以上